

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年10月4日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105123
法人名	有限会社 ライフサポート
事業所名	グループホーム 福平
所在地	鹿児島県鹿児島市下福元町7505番地 (電話) 099-210-8550
自己評価作成日	平成24年8月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成24年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの敷地内には、有料老人ホーム、小規模多機能ホームもあり、春にはホームの庭の桜の木の下で合同でのお花見、夏には夏祭りを地域、家族の方々をお招きし皆で楽しんでいます。畑には季節の野菜を植え、旬の物が食べられるように工夫をしています。
また、利用者の笑顔を大切にしたいと考え、月に1回の外食、年1回の一泊旅行を実施し喜んでいただいています。
ホームとしても、できるだけ最後まで、家族と相談しながらお世話ができればと考え、主治医との連携や、職員の研修にも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・「地域の中で、その人らしく、安心して、暮らし続ける」をモットーに、月に1回スタッフ全員で利用者一人ひとりについて、支援方法など話し合っている。また、年1回1泊旅行を実施したり、月1回の外食等を実施している。希望により、美容院等や近くの温泉に行ったりしており、利用者の笑顔を大切に支援をしている。
- ・グループホームの敷地内の2事業所と協力して、地域との交流を行っており、町内会の運動会等の行事や清掃作業への参加をしている。また、ホームの行事には、家族や近隣住民も招いている。また、中学校の福祉体験の受け入れや踊り等の慰問もあるなど、日常的に地域との交流を行っている。
- ・重度化した場合や終末期のあり方について、事業所として指針や医療連携に関する同意書、終末期の介護についての同意書をもらっている。また、内部研修を実施するなどして、スタッフ間で方針を共有し支援する体制ができています。
- ・ホームの菜園に季節の野菜を植え、旬の物が食べられるように工夫している。また、花見等で弁当を作ったり、ケーキやおやつ等を手作りしたりして、利用者の食生活が楽しめるように工夫している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎朝唱和して念頭に入れ、一人ひとりのその人らしい生活を把握し、実践に向けて取り組んでいる。	理念は、玄関やリビングに掲示し、パンフレットにも載せている。「地域の中で、その人らしく、安心して、暮らし続ける」をモットーに毎朝の申し送り時に唱和し、スタッフ会議等にて理念について確認し、職員はよりよいサービスが提供できるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	桜の花見や夏祭り、年末の餅つき等行事の際は、近隣の皆様が参加したり、町内会の各行事にも参加して交流を深めている。	町内会に加入し、町内会の清掃作業や校区の運動会・六月灯等へ参加し、ホームの夏祭り等の行事に地域住民も参加している。中学生の福祉体験の受け入れや踊り・楽器演奏の慰問もあるなど、日常的に地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	サマーボランティアを受け入れ地域の子供達に認知症について理解して貰えたらと考える。利用者と地域の方々がふれあう機会を持つことが出来ように行事等への参加の呼掛けをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のご家族や民生委員、地域包括支援センター等に参加を願いし、その時々課題点や問題点を提起して意見交換を行う会となっている。	会議は、利用者や家族・町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員等が出席している。活動内容等を報告したり、外部評価の結果から意見交換を行い、勉強会の提案があったりして、サービスの質向上に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進委員会等で地域包括センターとの意見交換を行ったり、連携を取っている。また介護相談員の受け入れも行い、より良い運営ができるように取り組んでいる。	定期的に市の担当者に報告したり、利用者の件で担当課への相談や情報交換も行っている。地域包括支援センター担当職員とも意見交換し、連携している。市の介護相談員も受け入れ、利用者へのサービス向上につなげている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束委員会を行い「禁止の対象となる具体的な行為」を繰り返し確認しあい、身体拘束のないケアに努めている。	身体拘束廃止委員会を2ヶ月に1回開催し、支援内容を確認する勉強会を実施し、職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠をせずに、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、気付きやすい身体的虐待だけでなく、ネグレスト・心理的虐待・経済的虐待についても話し合い、ケアの仕方に問題がないか確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に成年後見人制度利用者も入居しておりました。今後、必要な方が入居されても、対応出来るように、制度を勉強している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、契約書、重要事項説明書の内容を読みあげながら説明を行い、不安、疑問点には、その都度質問を受け、確認しながら説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談の窓口を設けたり、生活日誌に利用者の意見、不満、苦情等を書き留める欄を作ったり、面会簿にご家族が記入しやすい欄を作り、苦情相談委員会で話し合い、利用者にとって、過ごしやすい運営ができるようにしている。	利用者からは日頃の生活の中で意見や要望を聞き、家族からは運営推進会議や家族会参加時・面会時を活用し要望や意見を聴取している。意見等については、日誌に記録して職員全員で解決できるように努め、必要に応じて運営推進会議に報告している。苦情相談委員会や意見箱も設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は多忙な時でも、快く職員の意見に耳を傾け、解決に努めている。 日常的に職員からの意見を吸い上げ意見交換を行っており運営やケアに反映させている。	管理者は、毎月のスタッフ会議や申し送り時などで、職員からの運営に関する要望等を日常的に聞いており、勤務希望についても配慮している。代表者も現場にて、職員とコミュニケーションを取り、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、多方面から職員個々の状況に気を配り職場環境・条件の整備に努めている。また今年から人事評価シートを作成して、職員の努力や勤務状況を把握して、やりがいのある職場環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人採用時は、新人研修を行い、「谷山地区グループホーム勉強会」に出席したり、職員が考えた内部研修を行って、勉強している。また、法人内外の研修にも積極的に参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>谷山地区グループホームは、同業者の情報交換、交流、勉強、相互訪問が行われたり、サービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、担当ケアマネ等からの相談が多いが、利用に至るまでに本人とも会って面識を作ると共に、本人自身が困っている事や不安な事をよく聴き、受けとめるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が納得して安心して、ホームに入所させることができるように、困っている事や不安な事を傾聴し受けとめ、解決する様になるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と面談する中で、何が必要かを見極めて、様々な可能性を視野に入れ対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の生活暦や趣味を知り、日々の生活の中で一人ひとりの得意な事や好きな事を、活かせる様にし、自信を持って生活出来るような支援をする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に声を掛けたり、電話連絡等により、家族とコミュニケーションを図り、本人が安心して生活出来るように、思いを共有しながら、共に本人を支えていけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身体能力の低下により、馴染みの場への外出は厳しい時もあるが、馴染みの人と気軽に面会・外出が出来る雰囲気作りに努めている。	知り合いの訪問があり、利用者の要望による美容院や理容所への外出等、馴染みの人や場所との関係が継続できるように支援している。近くの温泉や墓参り等へ出かける等、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの性格や認知症の程度等を考慮しながら座席も配慮し、利用者同士が優しく楽しく関わり合える生活の場である様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への入所の為、退所した利用者についても職員は家族と連絡を取り合ったり、面会に行ったりして本人・家族との関係を大切に保ち続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生き方や趣味、やりたい事などを、本人・家族との会話の中や、生活の中から一人ひとりの思い(散歩、買い物、踊りたい、唄いたい等)意向の把握に努めている。	利用者から、日頃の生活の中で表情に注意し言葉かけを大事にして思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者には、家族から入居時や面会時に情報を得て、本人の意思を尊重した生活ができるよう、職員が情報を共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活暦を聞いたり、日々の生活を営む中で把握できる事もあるので、日常生活の細かな事も見逃さず情報収集する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のミーティングやカンファレンス等により、一人ひとりの心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を確認し、月一回スタッフ全員で一人ひとりの介護計画の見直しや支援方法などについてカンファレンスを行い、本人・家族の希望、要望が反映されたプランになるように努めている。	介護計画は、利用者や家族の意見をもとに、毎月スタッフ全員で話し合い、現状に即したプランを作成している。モニタリングは3ヶ月毎に実施し、介護計画の見直しも6ヶ月毎に行い、状態が変化した場合は随時見直ししている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録は異変や気付きは細かく記録し、本人の言動についても具体的に記録するようにし、職員全員が情報共有し統一した支援が出来るように努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>美容院、通院等の外出支援等の他、本人・家族の要望に応じた柔軟な支援がなされるように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアの方々による、家庭菜園や日舞観賞、地元中学生の体験学習を受け入れる事や地域の方とふれあう事により、豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の希望するかかりつけ医を優先し、合意の上でかかりつけ医と連携を取りながら支援している。受診時の状況を適切に把握する為「病院受診連絡表」を活用している。</p>	<p>希望のかかりつけ医への受診を支援し、「病院受診連絡表」を活用している。協力医療機関の週2回の往診や歯科の往診もあり、協力医療機関との適切な連携ができています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師と、日々の状況の変化等連携を取りながら、日常の健康管理を行っている。また、体調を崩された方の所へ来られる訪問看護師に情報を伝え、適正なケアができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は面会に行ったり、家族からの情報を得たり、直接担当医より情報を得たりしながら、早期退院に向けての取り組みをしている。リハビリ等についても進行状況の確認をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期の対応について、本人・家族の意向を書面にて確認している。その方針は全員共有している。また、状況変化に応じて再確認するようにしている。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、「医療連携体制同意書」「終末期の介護と延命について」の同意書を得ている。看取りについては、内部研修を実施し、スタッフ間で方針を共有しており、本人や家族の意向を確認しながら、職員間で話し合い支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習会を実施し、実際に人工呼吸や異物除去法の訓練を行っている。また、連絡網やマニュアルを事務所の目に付きやすい所に設置している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、様々な状況を想定して消防署の指導・立会いで避難訓練を行い、毎月各ユニットごとに防災自主訓練を行っている。マニュアルを作成し、安全に避難誘導出来るように努めている。</p>	<p>年2回、消防署の指導のもと、避難訓練や消火器の使用訓練等を実施している。各ユニットごとに自主訓練の年間計画を立て、毎月9日にテーマを決め訓練を行っている。職員の意識も高い。非常用の食料・水も備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃一人ひとりを大切にする、言葉掛けや介護方法を職員と話し合い、意識の向上を図っている。また、職員はよく理解して対応している。	人格の尊重とプライバシーの確保については、勉強会等で話し合い、特に、利用者の尊厳を大事にした言葉使いや声かけなど確認している。また、人格を尊重した支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、常に本人がどのように生活したいのかを探りつつ、本人の思いを大切に、不安なく心豊かに暮らせる様、家族の思いも尊重しつつ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や体調に配慮しながら、起床時間、個室での食事、買い物、散歩、昼寝、掃除、入浴等日々その人らしい暮らしが出来るように努めながら支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の好む色や服を理解し、心地よくおしゃれが出来るように努めている。外出が困難な方も、美容師さんに来所して頂き、その人らしい身だしなみに心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えて、メニューに好みの意見を取り入れるようにしている。本人の力量に応じて一緒に食事の準備を行い、楽しく会話をしながら同じものを食べている。	嗜好調査を行い、庭の菜園の野菜等を使い調理を行っている。花見等で弁当を作ったり、ケーキやおやつ等も手作りで利用者が楽しめるように工夫している。利用者もできる範囲で手伝い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスを受け献立作りに努めている。水分が不足がちな方にも工夫して摂取確保に努めている。食事量も一人ひとりにあわせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状況に応じて声掛けやセッティング、仕上げ磨きを行っている。歯科医師による口腔チェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターン習慣を理解し、適切に声掛け介助することにより、排泄のリズムを整え、失敗やおむつの使用を減らせるように努めている。	排泄チェック表を作成し、利用者個々の排泄パターンを把握している。適時にさりげなく声かけを行い、トイレ誘導をしてできるだけおむつをしないで済むように、排泄の自立に向けた支援を行っている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事、おやつに繊維性の食物を多めに摂取する等、できるだけ薬に頼らない工夫している。排便の周期をチェックし水分摂取、散歩や腹部マッサージ等も随時行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一番風呂に入りたい、午後から入りたい等、一人ひとりの希望やタイミングに応じて楽しく入浴出来るように支援している。	入浴は週に3回の計画であるが、利用者の希望を尊重して毎日入浴できる体制にしている。入浴剤などを使用したり、本人のペースでゆっくり入浴できるように、個別に支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に居るのが不安な人、寝付けない人等様々だが、不眠時はホットミルクを飲んでもらったり、話をしたりして、安心して休息、眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局で個別にセットしてもらい、間違いなく投薬するように2人以上の職員で確認している。又職員は薬の目的や副作用、用法について理解し、漏れが無いように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンや暖簾を有効に使い、個人の空間作りをしたり、共同の場所では綺麗で落ち着けるように配慮している。また、庭や畑から季節の花などを摘みテーブルや玄関に飾り、季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングは、利用者の作品や写真等が展示されており、畳の間では、前庭の芝生や桜を鑑賞することもでき、落ち着いて過ごせる環境になっている。また、手すりやすべての扉が引き戸になっており、トイレのライトもセンサー式で生活しやすい工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間でもテーブル座席の配慮や、和室を設置で気の合った利用者同士思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの備品であるベットやタンスの外、自宅から持って来た馴染みの身の回りの品々に加えて、大切な家族の写真や思い出の品など一人ひとりの個性ある居室になっている。	居室は洋室であり、すべての部屋にベッドや整理タンスを設置している。居室には、写真や仏壇、本人の使い慣れた家具等が置いてあり、一人ひとりの個性を大事にして、安心して暮らせるように配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	様々な所に手すりを設置し、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるようにしている。トイレのライトは、センサー式にしており、扉は引き戸で無理なく開閉出来るように工夫されている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない